



新年、明けまして おめでとうございます！

部長 松本 安博

新年、明けましておめでとうございます。地方によっては、大雪の元旦になったようですが、年末年始、いかがお過ごしでしたでしょうか。今年も各ご家庭にとりまして、穏やかで健やかな一年となりますことを心より祈念申し上げます。

今年は、「未年（ひつじどし）」ということで、私には、豊かな恵みの中で安らかな気持ちとともに群れ合う羊の姿が思い浮かびます。今年も願うところを「羊」の姿に重ねて、良き一年にしていきたいと思っています。

私は、昨年暮れ、本学の教職を目指す大学生や大学院生のみなさんが、初等部の教育を見学したいとのことでしたので、初等部の初任者研修も兼ねて算数の授業を行いました。その理由の一つは、部長の任について二年目を迎え、未来社会を見据えた初等部の「学力観」と「指導観（授業観）」、「評価観」の確立に向けて推進してきた授業改善の一端を見学してもらいたかったからです。そして、もう一つには、初等部の職員と従来の知識伝達型や技能習熟型の授業に止まらず、課題（問題）解決型や学習者能動型の授業の重要性と必要性を共有したいと願ったからです。

学級担任と算数科担当を加えて（ティームティーチング）三年生で実施したその授業の概要は、およそ次のようなものでした。

下のルールをまもって二けたの数を作り、ひき算とたし算の筆算をして最後の答えを求めましょう。

【ルール1】 まず十の位の数字が一の位の数字より大きい二けたの数を作ります。

【ルール2】 次に作った数から作った数の十の位と一の位の数字を入れかえた数をひき算します。

【ルール3】 最後にひき算の答えとひき算の答えの十の位と一の位の数字を入れかえた数をたし算して最後の答えを求めます。

$$\begin{array}{r} \text{例) } 73 \\ - 37 \\ \hline 36 \\ + 63 \\ \hline 99 \end{array}$$

$$\begin{array}{r} \text{例) } 72 \\ - 27 \\ \hline 45 \\ + 54 \\ \hline 99 \end{array}$$

【学習課題】 最後の答えはすべて99になるのでしょうか。「なる」か「ならないのか」調べてみましょう。

- ア) どのクラスもはじめは三つのルールをまもり、できる45通りの二桁の数を思いつくままに調べていましたが、次第に調べ方に工夫が見られるようになりました。（順序よく調べる考え）
- イ) どのクラスも調べを進めるうちに、調べた一部から結果を推測しようとする子がいました。（帰納的な考え、推測する考え）
- ウ) どのクラスもやがて「すべて99にならない」とする少数の意見が出されてきました。

例A) 80	例B) 32	例B) 32
$\begin{array}{r} 80 \\ - 28 \\ \hline 72 \\ + 27 \\ \hline 99 \end{array}$	$\begin{array}{r} 32 \\ - 23 \\ \hline ?9 \\ + \quad \quad \\ \hline \end{array}$	$\begin{array}{r} 32 \\ - 23 \\ \hline 09 \\ + 90 \\ \hline 99 \end{array}$
	+ →	

エ) どのクラスも上の意見に対して例B)は「数字のないところを数「0」（れい）とみると最後の答えはやはり99になる」とする意見が出されてきました。（IF：もしもとみる考え、新たな条件や観点でみる考え）

オ) クラスによっては、授業の中ほどから後半にかけて三けたの数（abc→cba）に発展させるとどうなるか、調べ始める子がいました。（自ら新たな課題を設定する考え）

カ) クラスによっては提示した資料や自ら調べたことから、【ルール2】の答えがかけ算の九九の九の段の答えになっていること（きまりを発見する考え）やそのことから最後の答えがすべて99になることを説明しようとする子がいました。（演繹的な考え）

キ) どのクラスもこの授業では、無意識のうちにたくさんのたし算とひき算のひっ算練習をしました。

「未（ひつじ）」の「未」は「未熟」の「未」でもあります。職員一同、常に初心をもって、これからも初等部生が活躍する未来社会を見据えながら、知識や技能の習得とともに自らが課題（問題）を設定し、筋道立てて考え、解決していく意欲的で創造的な初等部生の育成に努めて参りたいと考えています。

本年も、何卒よろしくごお願い申し上げます。